

日本に来たばかりの時、家賃が安くて大学にも近い町田市鶴川にアパートを借り、同じキルギス人の友達と一緒に暮らしていた。そこはとても静かなところで、駅からも離れていたため、周辺にある店の数は片手で数え切れるほどだった。

しかし、一年前に友人の紹介で新宿に近い代々木上原というところの「サクラハウス」シェアハウスに引っ越してきたら、鶴川での生活とは違い、毎日とても面白くて、充実した生活に切り替わった。欧米・中近東・東南アジアからの留学生と同居し、七人の女性と仲良く暮らし始めた。以前、体験したことのない新たな生活の始まりは、私にとって宝物のようなものになった。なぜかという、そんな多国籍の友達との出会いの中から様々な知識を得、将来につながる巧みなアイデアが次々と生まれるからだ。

例えば、サミラさんというフランス人の友達と一緒にフランス語の勉強をやり、ナジマさんというエジプト人の友達とアラビア語の読み方の練習をし、週末になると女性たち皆でそれぞれの国の美味しい物の味わえる食事会を催す。そして、余裕が出来た時に皆でシェアハウス周辺をぶらぶらして、地元の商店などの人々と触れ合い、代々木上原の発見に足を運ぶ。

実際、引っ越し前の代々木上原のイメージはとても賑やかで物価が高い商店街で、新しい建物ばかりの通りという感じだった。しかし、それは微妙に違った。まず、店は昔ながらの伝統を継いできたものが多く、文化と暮らしが交わる古い建物の街だと感じた。そして、近くの下北沢とは異なり、若者の遊び場というより上品な常連たちで賑わう独特な雰囲気のある街というイメージだ。

そんな発見の中で一番魅力的に思うところがある。古賀政男音楽博物館と、「Los Papelotes」という古本屋と、「アステリスク」というケーキ屋だ。なぜこの三つかというと、何よりゆったりとした空間の中でゆっくりとリラックスできるからだ。「アステリスク」の白と黒を基調とした洗練された雰囲気の中で美味しいフランスのケーキを味わった後、店の近くにある古賀政男音楽博物館に行くと、昔に遡っていくような気分になる。入ったとたん古賀政男氏の世界に浸り、自分の魂が豊かになる。何か珍しい物事を知りたいという気分になる時に古本屋に行くと、面白い本や雑誌などが手に入る。

代々木上原のシェアハウスに暮らし始めたことが、今とても嬉しい。色々な考え方の友達ができることが嬉しい。地元の商店の人々との触れ合いがあることが嬉しい。日本という素敵な国を新たな面から発見できることが嬉しい。人がつながる面白さを体験できる場所にいることが今私はとても嬉しい。

---